

皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
 ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp



よいことのために手を取りあおう

UNITE
FOR
GOOD

第1706回例会 令和7年10月30日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんばんは。夜間例会の時の話の進め方に迷っています。今回は能関係の話をして、謡をやりましたが、前半では関連する事項を、直前にもう1回追加の説明をする形にします。

引用されている和歌の話をしてから、更に追加の説明をします。

引用されている和歌

春がすみ 立つを見捨てて行く雁は

花なき里に住みやならへる【伊勢 古今集】

意味(春霞が立って花も咲こうというのに、それを見捨てて北方へ帰り行く雁は、花咲かぬ国に住み慣れているとでもいうのでしょうか。)といった意味の和歌になります。

作者の伊勢(生没年は不詳)は、藤原継蔭(つぐかげ)の娘で、平安時代の女性歌人。三十六歌仙の一人でもある。

引用されている漢詩【白居易 白氏文集】

三五夜中新月色 三五夜中新月の色

(さんごやちゅうしんげつのいろ)

二千里外故人心 二千里外故人心

(にせんりがいこじんのこころ)

意味(今夜は十五夜、みやこ長安の地平に、いま大きな満月が姿をあらわした。二千里のかなたにあるわが親友も、この同じ月をながめていることだろうが、いったいどんな気持ちでいるのでしょうか。)

『三五夜中(さんごやちう):十五夜』

白居易(772年2月28日 - 846年9月8日)は、唐代中期の漢詩人。代表作に「長恨歌」。白楽天(はくらくてん)の呼び名でも知られる。

引用されている和歌

水の面に照る月なみを数ふれば

今宵ぞ秋の最中(もなか)なりける

【源(みなもとの)順(したごう) 朗詠集-】

意味(池の水面にうつるさわやかな月影を見るにつけて、今夜の月は何日の月だったかと数えてみれば、ちょうど秋の最中(もなか)、八月十五夜でしたよ。)

作者の源 順(911年-983年)は、平安時代中期の貴族・歌人・学者。三十六歌仙の一人。

前回の続きですが、滋賀の方から琵琶湖に向かって歩いていくのですがその途中を謡っています。



シテ 「都の秋を捨て、ゆかば

地上歌「月見ぬ里に。住みや習へるとさこそ人の笑はめ。よし花も紅葉(もみじ)も。月も雪もふる里に。我が子のあるならば田舎も住みよかるべしいざ古里に帰らんいざ古里にかへらん。帰ればささ波や志賀辛崎(からさき)の一つ松。緑子のたぐいならば松風にこと問はん。松風も。今は厭(いと)はじ櫻咲く。春ならば花園の。里をも早くすぎ間吹く。風・冷ましき秋の水の。三井寺に着きにけり・三井寺に、早くつきにけり

ワキ 「桂は生(みの)る三五(さんご)の暮。名高(たか)き月にあこがれて。庭の木蔭に休らへば

シテ 「げにげに今宵は三五(さんご)夜中(やちう)の新月の色。二(じ)千里(せんり)の外(ほか)の故人の心。水の面に照る月なみを数(かぞ)ふれば。秋も最中(もなか)夜(よ)も半ば。所からさへおもしろや

都の秋を捨て、ゆかば・・・

春がすみの和歌を引いて、「都の月を待たずに下ってきた私を、無風流と人は笑うだろう。

ええ、花も紅葉も月も雪も降る、何も無い古里・田舎だって構わない。あの子と一緒にいられるのなら…」花も紅葉(もみじ)も月も雪も(降る)ふる里に。帰ればささ波や「波」が帰るの縁語『ささ波、楽浪(ささなみ):琵琶湖西南部一帯の古名』

桂は生(みの)る三五の暮:「桂」は月中にあるという想像上の樹。転じて、「月」。全体として、月が実って満月の日の夕方、といった意味。

漢字「桂」: 1 ニッケイ・モクセイなどの香木の総称。 2 月の別名。「桂月」。 3 「香りが出る樹木=香出る(カヅル)樹木」が由来で、「カツラ」と呼ばれる。

「桂月」と「月桂樹」の関係: 英語「laurel」は、比喩的には「栄光」や「成功」を意味する。古代ギリシャやローマの文化において勝利や栄光の象徴とされていた。

19世紀に「laurel」が中国に導入された際、漢字(月桂)が充てられ、日本でも「月桂樹」の名が与えられた。

菓子の「最中」との関係:「最中」には「物事を中心」とか「盛りの時期」という意味があり、「最中の月」で「盛りの月」、つまり十五夜の満

月「中秋の名月」をさしています。江戸時代の半ば、江戸吉原に店をかまえた竹村伊勢（たけむらいせ）という方が売り出した満月のような丸い煎餅が「最中の月」と呼ばれていました。今の「最中」の皮に近いものだったらしく、その後この「最中の月」の間に餡をはさんだ最中饅頭が誕生し、次第に饅頭が省略され「最中」になったといわれています。

【幹事報告】 山田 利明
今日は特に幹事報告はありません。



出席率 50.0%

【委員会報告】

1.



高田 富康会員

先日、地区副幹事予定者会議が10月11日に開催されました。次回の会議は12月3日に開催されて、会議終了後は希望者でそばの杜で夜祭を見る予定になっています。

先週の26日の日曜日に2770地区主催でスーパーカーラリーのイベントがありました。ポリオ撲滅の募金活動を行いました。登録料6,000円の内1,000円を募金するという事でした。

2.

小林 悟会員



R L I パートⅡのセミナーを板谷さんと一緒に受けてきました。

入会して8ヶ月では、まだ分からないですよと言われてながら受講しました。ベテランの会員の方も多かったです。



山田 利明会員

